

# インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.195

2018年10月9日

発行所 兵庫教育文化研究所  
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

## 忘れてはいけない過去—地図から消された大久野島—

平和教育部会授業研究会

9月、広島から外部講師として山内静代さん（協力研究所員）を招き、平和教育部会の授業研究会を西宮市で開きました。

6年生全員を対象とした授業は、授業者と外部講師とのチーム・ティーチング形式でおこないました。修学旅行で広島を訪れていた児童は学習の振り返りをおこなった後、「被害を受けたことだけではなく、戦争では相手を攻撃することも考えに入れて、今日の学習をすすめよう」と、授業者からの投げかけを受けて授業にとりくみました。児童は、講師から大久野島の毒ガス工場跡の写真や新聞記事の説明を受けたり、質問を投げかけられたりしながら、多くの人々に被害が及んだことを改めて感じることができました。また、当時は大久野島が地図から消され、国民にその事実が知らされなかったことを学びました。特に、「児童と年齢の近い動員学生が毒ガスを作っていたこと」、「西宮にも陸軍の毒ガス研究施設が設けられた話があること」の2点から、児童は「自分たちにも身近な問題である」ととらえる機会となりました。



授業の最後に、講師は児童に「おおくのしまが伝えたいこと」・「おおくのしまから考えてほしいこと」を投げかけました。児童は、「今まで日本がやられていることばかりだったと聞いていたけど、日本もやっていることがあるということを知った」という感想を述べていました。講師の『あなたは、平和な世界をつくるための大切な人なんです』という言葉で、授業が締めくくられました。

授業後の研究会では、講師からは「難しいテーマの学習であったが、事前にアンケートを取られていたので、子どもたちの関心に沿う形で授業を展開することができた。どこまで理解できただろうか」という発言があり、授業者からは、「今日の授業で、『被害だけではない』ということが伝われば、目標は達成できたのではないか」という発言とともに、今日の授業について寄せられる児童の感想をもとに今後の授業づくりや、教材づくりについて意見交換がなされました。

今後、平和教育部会では、「大久野島の歴史」を「戦争を多面性に考えることのできる教材」として、兵庫でも活用しやすくするための教材化を検討課題としていくことを確認しました。

今後、平和教育部会では、「大久野島の歴史」を「戦争を多面性に考えることのできる教材」として、兵庫でも活用しやすくするための教材化を検討課題としていくことを確認しました。

**（本授業の指導案は「組合員専用ページ」に掲載しています。ID、パスワードは各地域組合へお問い合わせください。）**